

# 国士舘大学大学院入学試験問題用紙

## 修士課程

研究科	専攻	試験科目	参考書等持込
経済学研究科	経済学専攻	国際マクロ経済学研究	不可

### 問題 1.

円とドルの為替レートを1ドル=E円と表記する。名目為替レートEの短期的な変化を説明する経済理論として、カバーなし金利裁定 (uncovered interest parity) に基づいて、Eがどのような経済変数に影響を受けるのかを、数式を用いて説明せよ。ただし、説明に際しては日本とアメリカの安全資産の利子率をそれぞれ  $i_J$  および  $i_S$  と表記し、必要であればその他の変数を自分で定義したうえで使用しても構わない。

### 問題 2.

円とドルの為替レートは、2010年代後半はおおむね1ドル=100~120円の範囲で推移したが、2022年から一時は150円を超える急激な円安へと変化した。この変化の原因と考えられるものは何か、適切な経済理論に基づいて説明せよ。

### 問題 3.

為替レートの変化が日本のマクロ経済に及ぼす影響を考えるうえでは、円とドルの名目為替レート1ドル=E円の数値だけに注目するのではなく、実質為替レート (real exchange rate) と実効為替レート (effective exchange rate) の視点も必要である。これら2つの概念をそれぞれ簡潔に説明したうえで、2022年以降の「円安」による日本のマクロ経済への影響としてもっとも重要と考えられる問題は何か、適切な経済理論や統計データに基づいて自説を述べよ。

以上

# 令和8年度 国士舘大学大学院入学試験

## 出題の意図と採点のポイント

研究科名	経済学研究科 経済学専攻
試験期別	I期
試験区分	一般選考
試験科目名	国際マクロ経済学研究

### ■出題の意図

標準的な為替レート決定理論として、カバーなし金利裁定を正確に理解しているかを問う出題である。「マクロ経済学」または「国際金融論」のテキストであれば必ず説明されている内容であるため、自分の言葉で平易に説明にできることが望ましい。

また、円安によるインフレや景気変動への影響は、直近の日本経済で注目を集めている問題のひとつである。大学院で国際マクロ経済学を専攻しようとする学生には、教科書の中の「経済理論」のみならず、つねに現実のマクロ経済データへの関心をもち、経済理論でどこまで説明できるのかという問題意識をもち続けてほしいという意図も込められている。

### ■採点のポイント

#### 問題 1.

- ①カバーなし金利平価式を正しく導出しているか
- ②日米の利子率の変化による為替レート E への影響を、正しく説明しているか

#### 問題 2.

アメリカの金融政策の変更タイミングを、正しく認識しているか

#### 問題 3.

- ①物価と E の関係およびドル以外の通貨の問題について、正しく理解しているか
- ②根拠に基づいて、自説を論理的に展開しているか